

頭まで続いていた。出合の小滝を除くと滝はなく、集塊岩のナメが断続するだけ。
12:10明るい伐採地に出た所で遡行終了とする。 (記・)

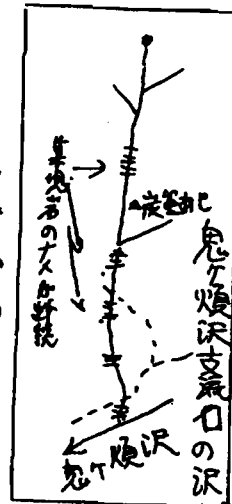
[タイム] イの沢出合(11:35)→終了(12:10)

鬼ヶ煩沢支流口の沢

1989年8月12日

口の沢(仮称)は、居伝金部落のはずれで鬼ヶ煩沢と合流している。小さな沢で水量も少ない。しかし、水流が源頭まで続き、そんな中、集塊岩のナメが断続して出現する。滝はかからなかった。遡行開始10:35, 終了11:10。所要時間35分の短い沢登りであった。 (記・)

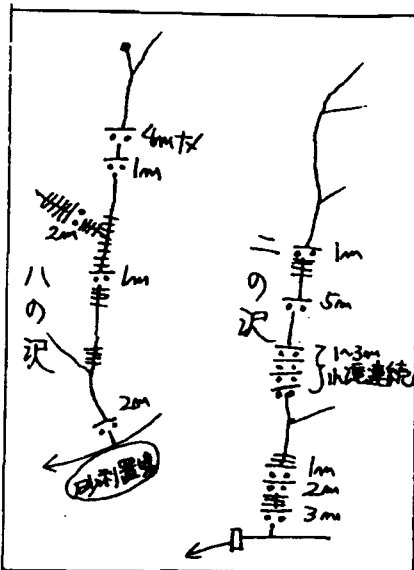
[タイム] 口の沢出合(10:35)→沢終了(11:10)



鬼ヶ煩沢支流ハの沢

1989年9月3日

ハの沢(仮称)は、八溝探石の砂利中間ストック場の向いで鬼ヶ煩沢に合流して



いる。8:40遡行開始。小さな沢で、出合すぐに2mの小滝をかけたほかは、細々とした流れが源頭まで続いている。周囲はよく生育した杉林。その中を次第に水量が少なくなってゆく。やがて小さなナメ。そしてそこを過ぎたら、傾斜が急になってきた。ホールドがいっぱい4mナメ滝を越すと、もう水の流れは極端に乏しくなる。そして沢には倒木が多くなる。右岸上部には五来山林道から派生していると思われる林道が走っている。もうこの辺で良かろうと、9:05遡行終了とし、二の沢(仮称)めざして左岸の樹林帯に入り込む。

[タイム] ハの沢出合(8:40)→終了(9:05)

鬼ヶ畑沢支流二の沢

1989年9月3日

二の沢(仮称)下降開始9:20。沢は細いが水はきれいである。ここも樹林帯の中で、沢筋は暗い。15分程下ると、5mの滝が出てきた。クライミングダウン。若干ナメ状で、ホールドも多いので、楽である。そのあと1~3mの小滝が階段状に連なる場所に出る。8個の小滝が連なっているが、下降に難しい所はない。このあと沢の流れはなだらかになったので、もう終わりかと思っていたら、本流との出合に3つの小滝を連ねていた。最後の3mをシャワーでクライミングダウンしたところで下降終了。所要時間30分。

(記

[タイム] 二の沢下降開始(9:20)→下降終了(9:50)

鬼ヶ畑沢支流ホの沢

1989年9月9日

7:20ホの沢(仮称)の遡行開始。すぐ左岸が伐採地となつて、沢は倒木で歩きにくくなる。そんな中4mナメ滝がかかる。左岸を快適に直登。ホールドも多く、傾斜的にも登りやすいナメ滝である。このあとまた7mのナメ滝。左岸の伐採地はここで終わっている。このナメ滝もホールド多く、傾斜的にもちょうど登りやすい。左岸を快適に越える。そのあとすぐ3mのナメ滝。ここもホールドが多い。ホの沢(仮称)の核心部はここで終了。このあとは平凡な登りとなる。

8:10右手の支沢に少し入った所から大量の湧水が入り、本流のほうは水量がぐっと減る。そしてすぐ水源の湧水となる。この沢も湧水が水源であった。(記・西和文)

